

小学生防災体験活動 「たのしくあそまなぼうさい」 の実践活動

4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



キーワード

防災体験活動、防災・減災、東日本大震災、ハンドブック

○取り組んだきっかけ

東日本大震災から11年が経過しました。時間が経つとともに人々の記憶と関心が薄れ、震災を知らない子どもたちも増加傾向にあることから、震災の記憶を忘れない為に、また地域で起こり得る防災に対して強い関心を持ってもらう為に、小学校PTAと連携し、小学生を対象とした防災体験活動「たのしくあそまなぼうさい」を行いました。(新型コロナウイルス感染拡大のため中止)

○活動の目的

これからの未来を担う子どもたちと共に東日本大震災について振り返り、未来に起こる可能性の高い防災・減災について、身近なこととして考え、命を守る行動、震災時重要となる地域社会との関わり強化に繋ぐための機会の提供とし、様々な活動に取り組みました。

○具体的な内容

防災ハンドブック・防災動画作成、わが町はままつ大学生交流フェスタ2021へのブース出展の3つを行いました。

防災ハンドブックは震災・防災についての知識の定着、家族内での防災知識の共有を図る、災害が起きた際に活用してもらう目的で作成し、震災・防災についての知識の定着、家族内での防災知識の共有のきっかけになるように工夫をしました。防災ハンドブックは、わが町はままつ大学生交流フェスタ2021、3.11復光キャンドルナイトの来場者、浜松市立飯田小学校へ配布を行いました。

防災動画は児童の興味関心や防災意識の強化を目的に作成しました。いつ起こるか分からない災害に向けて自分ごととして防災について考えたり、災害が起きた際に自分には何が出来るのかを改めて考えたりするきっかけを作ることができました。

「わが町はままつ大学生交流フェスタ2021」のブース出展では、小学校での防災体験活動「たのしくあそまなぼうさい」の代替案として、浜松市内大学地域貢献ネットワークと連携しブース出展をしました。3.11復光キャンドルナイト写真展、防災ハンドブックの配布、浜松から東北へ思いを届けるメッセージカードの制作を行いました。さらに、子ども達にもっと震災や防災・減災に関しての知識、関心、意識を、楽しみながら深めてもらうために、SDGs防災かるたなどの防災ゲームや防災ダック、バケツリレーなども行いました。写真展では、第1回から第10回目の3.11復光キャンドルナイトの活動写真やテーマとなった文字の写真等を展示しました。多くの来場者が足を止めて鑑賞してもらう機会となりました。防災ゲームでは、参加してくれた17人の子どもたちにアンケートを行いました。「防災について楽しんで学べたかな？」の問いには、17人全員から「楽しかった」との回答が得られました。このことから、当団体の活動を通じて防災・減災について楽しく学ぶ場を提供できたと考えます。

○期待される効果

防災体験活動から、防災・減災について楽しく学び、興味関心を持たせるきっかけ作りができたことから、防災・減災意識の向上に期待できます。



伊藤 萌

所属学部・学科 健康プロデュース学部
健康栄養学科

3.11はままつ東北復光プロジェクト 実行委員長



連携先

- ・浜松市市民協働センター
- ・浜松市内大学地域貢献ネットワーク
- ・浜松市立飯田小学校